

プラスバンド部の 思い出

宇野 章乃



東大津高校での勤務は夢のような毎日でした。外部の先生がお辞めになった時、私と一緒に頑張っていた、と言ってくれたのもつかの間、翌年のコンクール直前には指揮者をかえて欲しいと詰め寄られ、非常に辛い思いもしました。先生なんか最低やと、言われ傷ついたこともしばしば。毎日悪夢の連続でした。本番前になると不安で夢にも出てきました。

土日の休みもなく、夜も遅く、そんな生活にあきらめがついて7年。東大津高校の吹奏楽部に入部した時から入学したという生徒に心打たれ、一生懸命頑張る生徒が頑張れるクラブに、そして聴いて下さるお客様が喜んで下さるような音楽を目指し、気がつけば、吹奏楽どっぷりの生活となりました。

新型インフルエンザによる休校で、コンクール2日前まで練習ができない中、予選を見事に突破し県大会に出場した昨年。金賞には

及ばず、悔しい思いをさせてしまいました。が、無我夢中で頑張ってくれたことに心がいつぱいになりました。

『後援の風』

に取り組んだ年には、

作曲家八木澤教司先生のレッスンを受けたことができたことも夢心地でした。

定期演奏会での卒部式で見せてくれる、みなさんの晴れやかな顔、演奏会翌日に奏でてくれたとおきの演奏

クラブ紹介



定期演奏会にお越し下さった宇野章乃先生と吹奏楽部OGの皆さん

は忘れられません。十分にお世話できなかったこと、この場をお借りしてお詫び致します。みなさんと出会えたこと糧に、新しい勤務地でも頑張っていこうと思います。

最後に、後輩のために気持ちよくお手伝いできるそんな素敵な先輩となってくれた卒業生のみなさん、この夏は本当にお世話になりました。東大津高校と私の現在の勤務校の両方にお手伝いに来てくれたこと、涙が出るほど嬉しかったです。これからよろしく願います。ありがとうございます。

伝統の耐寒遠足に参加しました!

近畿地方には珍しい大雪警報が出た2月11日、同窓会担当の小森先生のお誘いで昨年に引き続き東大津恒例の耐寒遠足に参加しました。

本来であれば学生と一緒に全行程を走破すべき所なのですが、まもなく50歳の身体と、次の日の事を考えると、今年も半分の距離を歩いてきました。



今年の北コースで一緒に参加したOGさん

今年は北コースでアップダウンが少なく比較的楽に歩けると事前にお話をいただいたのですが、東大津創世記に卒業した時とはコースも変わっており、最初の数年は国鉄逢坂駅出発で到着地が京阪本駅でした。また1年ぶりの長距離歩行で歩けるのかなとの不安まじりの出発でした。

和邇駅をスタートして琵琶湖大橋の手前までは当初の不安はどこへやら快調に歩けたのですが、中間地点の鳥丸半島がおもむろに見えだした頃には、いつギブアップしようかとそんなことばかり考えながら歩いていました。でも、自分から参加したのに足を止めてしまうのは、あかんやろと自分を奮い立たせ、何とか目標地点に到着することが出来、久しぶりに15キロを歩くことが出来ました。



平成22年南コース中間地点にて

した。さてどうするかと思しはし見えていますと、誰に頼まれるまでもなく友人と思われる学生が肩を貸し、あるいは手を引いて全員がゴールの学校に向いて歩いた。私が学生時代には気がつかないが、この遠足の趣旨は決して目標に向かってあきらめない心、助け合う心を育むとても大切な行事であることを改めて痛感しました。教室の中での知識だけの勉強ではなく、実生活に直結する大切な体験を得ることの出来る耐寒遠足、是非今後とも続けていただければと思います。後書きとなりましたがこの耐寒遠足を毎年、立ち番・昼食の炊き出し等、全面協力していただきましたPTAの皆様にお礼を申し上げる次第です。私も来年も参加し、お手伝い出来ればと思っています。